

## 世界史第2問

人類の歴史のなかで、遊牧は農耕とならぶ重要な生活様式のひとつであった。遊牧民、とりわけ軍力や機動力にすぐれた遊牧民の集団は、広域にわたる遊牧国家の建設や周辺の農耕・定住地域への侵入、大規模な移動などによって大きな役割をはたした。これをふまえて、以下の設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) 中央ユーラシアの草原地帯に出現した遊牧民のなかでも、4世紀になるとフン族が西進し、それとともにユーラシア西部に大変動がおこっている。やがて、5世紀後半には遊牧民エフタルが台頭し、周辺の大国をおびやかした。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 5世紀におけるフン族の最盛期とその後について、2行以内で説明しなさい。

(b) エフタルに苦しめられた西アジアの大国を中心とした6世紀半ばの情勢について、2行以内で説明しなさい。

### 【フン族・アッティラ王・カタラウヌムの戦い】

- 西ローマ・ゲルマン連合軍が、アッティラを破ったのは何という戦いか。(1)
- ……フン族に圧迫された西ゴート族が1 ドナウ川を越えてローマ帝国に侵入したことをきっかけとして、いわゆるゲルマン民族大移動が始まった。彼等は、ローマ領内にいくつかの部族国家を建設した。2 アッティラの率いるフン族がさらに勢力を拡大したのに対して、ゲルマン諸部族は3 西ローマ帝国と協力して、451年の4 カタラウヌムの戦いでこれを破った……(冬)
- ローマ時代にフランク族以前にガリアに進出した東方の異民族として主なものを2つ挙げ、そのガリア進出状況、あるいは衰退原因について3行程度で説明せよ。

### 【エフタル・ササン朝・ビザンツ帝国】

- 6世紀後半から内陸アジアを支配した勢力について3行程度で記せ。(夏)
- ……ホスロー1世はササン朝全盛期の王で、ビザンツ皇帝ユスティニアヌスとメソポタミアを争った……(夏)
- エフタルの作った国家は何世紀にどの地域で最も栄えたか。また、何世紀のいつごろにどのようにして滅んだか。3行以内で述べよ。(3)
- ……6世紀、ササン朝はホスロー1世のもとで全盛期を迎え、西方ではユスティニアヌス1世時代のビザンツ帝国と抗争し、東方では突厥と結んで遊牧民族のエフタルを滅ぼして中央アジア方面に進出し……(2)

問(2) 中央ユーラシアを横断する大草原に住む遊牧トルコ人は、イスラーム世界の拡大とともにこれとさまざまな関係をもつようになり、その一部はやがて西アジアに進出して政権を樹立し、アラブ人やイラン人とならんで重要な役割をはたすことになった。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 9世紀ごろになると、アッバース朝カリフの周辺にはトルコ人の姿が目立つようになった。彼らはアラビア語で何とよばれ、カリフは彼らをどのように用いたのか、2行以内で説明しなさい。

(b) 中央ユーラシアから西アジアに進出したトルコ人が建てた最初の王朝の名①と、この王朝が支持した宗派の名②を、冒頭に①・②を付して記しなさい。

### 【マムルーク】

- マムルークとはいかなるものか。実例をあげて4行以内で説明せよ。(2)
- イスラーム世界を例に、以下の二つの字句を説明するなかで、「中世」という時代の政治体制、思想状況の特徴を7行以内で述べよ。なお、その際、字句は重複使用してもよく、また、字句の下には下線を付せ。  
(2) マムルーク スーフィー信仰
- ……マムルークはトルコ人などの奴隷兵を指す。アッバース朝では大量のマムルークを購入して親衛隊

を組織し……奴隷身分から解放され、軍団の司令官や地方総督に抜擢されるものも現れ……国家の支配権を手中にし、カリフの改廃も左右するマムルーク軍団も登場……（2）

### 【セルジュク朝・スンナ派】

- 10世紀から16世紀にかけてはトルコ族の勢力が大いに発展した時代といえる。この時期におけるトルコ族の帝国について、その発展過程と歴史的意義について、以下の語を用いて10行以内で記せ。（3）
- 西アジアを中心にして、これに続く10世紀から17世紀にかけてのイスラム世界における政治体制の変化を簡潔に述べ、次いでこれと対比しつつ同時代の西ヨーロッパ世界、南アジア世界における政治体制の変化を略述せよ。（夏）
- シリアがイスラムの手に移ってからオスマン帝国の成立に至るまでに、シリアの地ではどのような勢力が交錯したか。（1）

問(3) 匈奴以来、モンゴル高原にはしばしば強力な遊牧国家が誕生し、中国の脅威となった。あるものは長城を境にして中国と対峙し、あるものは長城を越えて支配を及ぼすなど、遊牧民族の動静は、中国の歴史に大きな影響を与えつづけた。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

- (a) 漢の武帝の対匈奴政策と西域政策とのかかわりについて、2行以内で説明しなさい。
- (b) 15世紀なかごろにはモンゴルのある部族が明の皇帝を捕虜とする事件がおこった。この部族の名①と事件の名②を、冒頭に①・②を付して記しなさい。

### 【漢の西域経営・張騫・大月氏・匈奴挾撃】

- 漢の武帝が大月氏の作った国家に張騫を派遣した目的と結果について6行以内で述べよ。（3）
- 次の人物についてそれぞれ1～2行程度で簡潔に説明せよ。（2）  
(2) 張騫
- 前漢の武帝は特に積極的に異民族に対する探索と遠征を行った。彼の行ったこのような外交政策について、次の語を用いて5行以内で記せ。（3）  
回廊部          敦煌          フェルガナ          大月氏
- 前漢において遠隔地交易が確立したが、その経過について述べよ。（1）
- 匈奴が台頭してきたのはなぜか、また中国王朝はこれに対してどのような対応をとったか、簡潔に述べよ。（1）
- 紀元前3世紀ごろから13世紀に至るまでのアジアを中心とした遊牧民の動きとそれに対応する諸王朝の動きについて述べよ。（2）
- 漢の武帝の時代から1世期末までについて、匈奴の作った国家の動向を述べよ。（2）

### 【オイラート・土木の変】

- 永楽帝没後、モンゴル高原西部で強盛を誇り、明に侵入したモンゴル系部族は何か。また、1449年に彼らに捕らわれた明の皇帝の名と事件名は？（1）
- 20世紀前半までのモンゴル民族の歴史を、次の語句を用い、中国の諸王朝との関係を踏まえて、14行以内で説明しなさい。（2）
- 遼、金、元、清に共通してみられる統治体制について、次の各語句を必ず1度は用いて、20行以内で説明せよ。用いた語句には下線を付すこと。  
万里の長城          遊牧民          州県制          パスパ  
正統帝          土木の変          ジュンガル          青海

### ◆コメント◆

中央アジア史の問題にしては平易であった。ほとんどの東大受験生は、中央アジアの遊牧民に関しては、集中的に学習しているはずで、世界史のポイントがわかっている人にとっては平易な出題だっただろう。